

## 大東町の中心市街地の再編について

研究部会 第4分科会 森田俊作

### 1. 大東町の概要

大東町は、出雲地域のほぼ中央にあり、「出雲風土記」にも記されているように、交通の要所として、古くから経済、文化が発達してきた町である。

- 人口：約 14,900 人（昭和 30 年（約 21700 人）以降、人口は緩やかな減少傾向）
- 産業の特徴：農業（米作、メロン、畜産、養鶏等）
  - ：工業（自動車部品等、食料品加工（お茶、そば・うどん、酒・醤油等））
  - ：商業（食料品、日常品等）
- その他の特徴
  - ：伝統行事（とんどさん、観音さん、えびすさん、七夕さん、神楽等）
  - ：自然（川、水、ホタル等）

### 2. まちづくりの基本的方向

- 都市マスター プラン
  - ・ テーマ：悠々生活都市・だいとう  
ゆったりとした住環境のあるまち／快適な日常生活が送れるまち／水と緑に憩い  
学び遊べるまち／生活に文化が融けこむまち／人にやさしく安心で安全なまち
- 区画整理事業
  - ・ テーマ：魅力と活気にあふれた次代のまちへ＝商業及び住宅地の整備
    - ◆ 面積約 13.6ha
    - ◆ 都市計画道路の整備（松江木次線ババ W=27m、玉湯吾妻山線 W=19m）
    - ◆ 区画街路（6~10.5m、歩行者専用道路 W=4m）
    - ◆ 公園（身近な憩いの場、2カ所、4,100 m<sup>2</sup>）

### 3. 中心市街地再編に向けての課題

- バイパス等の整備に伴う旧道沿線商店街の低迷

大東町のまちは、江戸期の街道沿いに発展してきたまちであるが、明治以前には店がなく、定期的に市（六日市、三日市）が開かれていた。明治以降各種の店舗ができ、次第に市街地が形成されてきた。大正 5 年に大東駅ができ、市街地は西に広がって発達してきた。昭和 40 年に交通緩和のため、今のバイパスが整備され、今度は南に向け市街地は発展してきたが、その分旧道沿いの商店街は賑わいを失いつつある。今回さらに南にバイパスが整備されるとともに、区画整理による市街地の形成により、さらなる地盤沈下が懸念される。
- 伝統行事の継承（新規編入町民とのコミュニティの形成）

大東町は、七夕まつりをはじめとする伝統行事を多く継承し、地域活動が盛んなまちであり、21 世紀に心豊かに暮らすための重要な要素として捉えられる。今回の中心市

街地周辺での区画整理は、大東町が目指す「悠久生活都市」の起爆剤となるもので、定住化を促進し、他市町村からの編入を期待するものであるが、これにより折角の地域コミュニティが崩壊することは避けなければならないと考えられる。

#### 4. 中心市街地再編の提案

##### 1) 旧道エリアにおける生活環境の整備

旧道沿道商店街が存続していくためには、エリアの生活環境を整備し、空洞化を抑制する施策の展開するとともに、活性化に向けた取り組みが必要である。

- ・ 日常的な買い物の場としての機能の充実（利便性、サービス、ふれあい等魅力の向上）
- ・ 旧道北部ゾーンにおける住宅開発及び公園の整備
- ・ ポケットスペースや寄り合い場（お茶）の整備
- ・ 市の復活（町民参加の現代の市を開催する）
- ・ 利用しやすい歩車共存道路（駐車禁止の解除）、イベント道路
- ・ 歴史的建造物の保全や細街路（南北道）の整備（将来に向けての資産）

##### 2) バイパスの沿道整備

新規バイパスは通過交通の処理とともに、大東の新たなシンボルとなる道路である。

- ・ 立寄利用型店舗の集積（コンビニ、飲食店、ホーメン、カリシンド等）商店街との差別化
- ・ 公共施設（利便性を活用した集いの空間）
- ・ 緑の軸の形成（東西の山の自然を市街地に引き込む）
- ・ 歩行者、自転車利用者が安心して利用できる道（間口の制限）

##### 3) 伝統行事の継承

受け継いできた伝統行事を活用し、地域コミュニティの形成を図る。

- ・ 町民一人ひとりが伝統行事を楽しみ、誇りに思う（地域+学校教育、PTAでの活動）
- ・ 町としてのPR、助成など、積極的な取り組み（融合への手助け）

